



学校だより

横浜市立矢上小学校

☺手をつなぎ 笑顔いっぱい 矢上っ子☺

10月号 発行日 令和5年9月29日

「みんなが笑顔で働ける世の中」

校長 岸 俊介

この9月に4年生野島宿泊体験学習と5年生西湖宿泊体験学習が行われました。子どもたちが帰校したとき、わたしは子どもたちの顔を見渡すとともに、職員の顔を見渡しました。宿泊体験学習の引率という重責を果たし、安心した表情が見て取れました。子どもたちが家路についた後、職員に「お疲れ様!」という労いの声をかけました。職員からは安心した表情に加えて、「やりきった」という、どこか充実した気持ちが伝わってきました。

引率を終えた職員から「たった2日間なのに、子どもたちの成長を感じることができました!」「キャンプファイヤーで子どもたちが肩を組んで歌っている姿を見ました!」「子どもたちがいきいきと活動を楽しんでいました!」など…たくさんの充実したエピソードを聞くことができました。職員が仕事を通して、子どもたちと共に喜んでいることを感じ、私はとても嬉しい気持ちになりました。

朝日新聞9月20日朝刊一面の見出しに「教員志願 止まらぬ減少 本社全国調査 来年度6000人減」とありました。どうして減少が止まらないのか…という話をここで詳しくはしませんが、世の中にとって学校は「持続可能な働き方」ができない場所、相対的に魅力的ではない場所になってしまったということなのでしょう。

「持続可能な働き方」に向けて、学校は「働き方改革」を進めています。行事の精選、留守番電話の設定、ICT活用による合理化などなど…、まだまだできることはたくさんあります。そのような「条件整備」的な改革はもちろん大切です。しかし、それだけで「持続可能な働き方」に迫ることができるのでしょうか。

職員は子どもの成長を喜び、その喜びを次の仕事のモチベーションにします。職員は、子どもたちや保護者の皆様の「楽しかった」「ありがとう」などの声を聴いたり嬉しそうな様子を感じたりし、自分の仕事が「人のお役に立っているのだ」という実感をもちます。「働き方改革」とはズレたことを言うかもしれません。われわれ職員は「人のお役に立っているのだ」という実感をもつことで勇気づけられ、元気づけられ、「持続可能な働き方」につながっていく…と、私は考えています。

4年生を乗せた貸し切りバスが目的地に着いたときのこと。子どもたちがドライバーさんに「ありがとうございます!」と進んで言いながら降車していました。ドライバーさんの嬉しそうな顔を思い出します。学校は嬉しいこといっぱいの素敵な場所です。学校発で、みんながニコニコ笑顔で働ける、温かい世の中になりますように。

■9月、たくさんのできごとがありました。ホームページでお伝えしているものもあります!ご覧ください■

- 全学年 プール納め □4年生 野島宿泊体験学習 □5年生 西湖宿泊体験学習
- 2年生 慶応義塾大学との交流(理工学部「矢上祭」作品作り)
- 3年生 第2回 みやまエコンテスト~子どもたちと一緒に考えるキレイな地域づくり~(ポスターコンテスト)
- 6年生 横浜美術大学との連携学習(動画づくり) □6年生 コーチング出前授業
- 1・2年生 誘拐防止キャラバン(港北警察署スクールサポーターによる出前授業)
- 5年生 日産ものづくりキャラバン出前授業 □4年生 水と緑の学校(矢上川に学ぶ)
- 3年生 幸せ実るイエローガーデンとチョウの羽化(理科の学習)

【学校の様子をホームページにてお知らせしています】
各学年の活動や学校からのお知らせを掲載しています。ぜひご覧ください。
<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yagami/>



↑QRコード↑